

しかし、日本にとっては「安心して日本へは行けない国」ということを世界に証明することになり、果たしてそんな国へ「選手を派遣していいのか」という不安が高まる。仮に選手が送られても、数万人に及ぶ選手・役員は選手村と競技会場に缶詰め状態に置かれて帰国することになり、経済効果がゼロに終わるだけでなく「コロナに勝った証し」というよりも「コロナに負けた証し」となりかねない。

／／五輪開催に抱くアスリートと国民の不安、国内と世界の世論が見えているか？

4年に一度開催されるオリンピックは「世界の祭典」とも言われる。祝祭はすべての人から歓迎され、祝福されるから、五輪は多くの人々の「希望の祭典」にもなっている。

だが今、常識的には開催できない状況の中で、むりやり開催を強行する動きに対してアスリートからも不安と批判が噴出し始めている。国民の世論は「開催できればいいが、コロナの状況を見れば今夏の開催は無理」という意見に集約される。現状では「開催すること自体が感染悪化をもたらす、塗炭の苦しみを多くの人たちにもたらす」という懸念からだ。このような世論を押し切って「アスリートのために」を掲げて強行したら、スポーツそのものが国民に憎まれかねないという恐怖だ。「アスリートとしては五輪はやりたいが、一国民としては開催に反対」（女子陸上の代表選手）という声に代表される。

パラリンピックのアスリートたちは、もっと深刻な状況だ。さまざまな身体的障害を持ち、感染対策には人一倍気を使っているうえ、半数以上が選手登録のための事前作業も進んでいないという。元五輪陸上選手のスポーツ経済学者は「このまま開催すれば、五輪の価値そのものを損なう」と警鐘を鳴らしている。

／／政府が「開催の可能性」にこだわるのは何故か？

「2020 東京五輪」はもともと、開催趣旨が怪しい中でスタートした。疑惑まみれの招致運動の結果 2013年に開催地に決まった際の旗印は「復興五輪」だった。就任間がない安倍前首相が招致演説の中で「フクシマはアンダーコントロール下にある」と胸を張った“大ウソ”に始まり、「復興五輪」は被災地から冷たい視線を浴び続けた。パンデミックが最大の課題になると「コロナに打ち勝った証し」が加わった。

いずれも空虚な名目だということは、だれの目にも明らかだ。本心は波及効果を狙った経済対策と、五輪の誘致や成功を土産に選挙に利用しようとする政治的魂胆が丸見えだ。今回の森喜朗組織委員会会長の問題発言と辞職、後任選びのドタバタを通じて、政府は「政治との距離」を装うポーズを繰り返したが、招致運動以来一貫して「政治と金まみれ」になってきた東京五輪の実態は、もはや覆い隠すことはできない。

昨年9月、突然の安倍退陣で後継首相に就いた菅首相は、コロナ禍が続く中で衆院解散をするタイミングを失い、もはや五輪開催の後でしか解散に打って出るしか道は残されていない。逆に、開催中止に追い込まれた際には、投資費用の損失への対応や政治責任など想像を超える混乱に巻き込まれて選挙どころか政権維持はたちまち赤信号になる。

コロナ禍の厳しい状況の中でも「五輪開催」に固執するのは、開催国政府の「政治的都合」であり、ポスト安倍・菅政権を伺う開催都市首長・小池都知事との複雑な駆け引きの中で、土壇場まで開催の可否決定が引きずられていると見える。

／／やるか、止めるか。だれも言い出せない「最悪のシナリオ」とは？

東京出身の在米ジャーナリストである冷泉彰彦氏が2月25日、ネットニュースで「誰も言い出せない東京五輪の最悪シナリオ」を挙げている。3月には開催の可否を決めねばならないのに組織委員会会長の「差別問題」やスキャンダルに3週間も、国を挙げて浪費していた。いや、核心を避けて逃げていたというのだ。

一つは、「オリパラ実施体制」が抱えているさまざまな「闇」だ。公表されている費用のほかに、施設建設費などにもっとかかっていることや、代理店や代行業者から巨額のツケが回ってくる可能性、招致活動に関する疑惑の闇も引きずったままだ。分からないことだらけの「東京五輪の闇」が噴出するかもしれない。

二つ目は、「だれも決められない、誰も全体像をつかんでいない」という最悪のシナリオだ。バツハ会長にしても各国、各競技の現状を十分把握していないかもしれない。森+橋本グループにしても、菅内閣にしても、感染対策をして開催が可能なのか無理なのかという判断材料も持っていないかもしれない。延期追加費用の問題も宙に浮いたままだし、開催しても巨額の損失にどう対応するのか、これまで引きずっている「闇」についても、全体像が見えている人はいない。

その結果、これから何が起きるのか？ 国民にとっても恐ろしい話だ。

.....

／／／ 発行：市民まちづくり研究所 / 松本誠 MATSUMOTO, Makoto

<http://matsumoto2008.com> e-mail: makoto@matsumoto2008.com

／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／